

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101155		
法人名	有限会社 品川企画		
事業所名	グループホーム みなとのみえるハウス（ユニット宝）		
所在地	長崎県長崎市川上町30-1		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みなとのみえるハウス」その名の通り、鶴の港と呼ばれた長崎港が一望出来る風光明媚な中に、建っている。看取りについては、オープン当初より、ホーム全体、スタッフ全員で取り組んでいる。ほむむに関わる医師や看護師、介護用品等業者の方々も同様である。入居者の方々にとって、ここは「終の住処」をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、リビングから長崎港を一望でき、広い屋上に出ると季節の風や景観を味わうことができる環境にある。理念にある「尊厳のあるその人らしい生活」は、毎月の接遇研修で専門性に立ち返る姿勢やポータブルトイレを設置しない排泄支援、車イスからリビング座席やソファへの移乗支援など、具現化が見てとれる。「終の住処」をモットーとしていることを根底に、日常的に職員間で「認知症であっても一人の人」であることの意義を話し合い高い意識を持って取り組んでいる。長いコロナ禍を経て5類となり、感染対策を図りながらも、4年ぶりの「大浦くんち」による保育園児の踊りの訪問や市内各地の外出ドライブ、職員手作りの料理で彩る行事など積極的な活動に転じている。また、家族の面会も再開するなど、入居者を第一に、更なる支援に尽力する姿勢は優れているといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット宝の理念を作り、毎朝の申し送り時に唱和し、意識を高め、実践に繋げている。	事業所の理念にある「尊厳のあるその人らしい生活」はポータブルトイレ設置無しや車イスから椅子への移乗支援など具現化が見てとれる。職員は、ユニット毎の理念も併せて毎朝唱和することで介護職員としての専門性に立ち返り、実践に繋がっている。開設当初から「協働」をスローガンとし、外部機関とも積極的な協力関係を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で三密になる事を避けているが、町内の一員として回覧板の受け渡しや、町内の消防訓練などに参加している。	自治会に加入し回覧板が回ってきている他、今年度はコロナ禍で中止となっていた地域主催の災害訓練が再開となり、入居者とともに参加している。また、4年ぶりの「大浦くんち」開催で、玄関前敷地で保育園児の踊りを入居者が楽しむなどの賑わいが返ってきている。地域住民とは、散歩時の挨拶など、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過の為、なかなか地域の方との交流が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催していたが、コロナ禍の為、現在は書面会議とし、資料を配布している。意見があった際は、サービス向上に活かしている。	昨年度から引き続き2ヶ月毎に書面会議を行っている。ユニット毎に取組の内容を議事録にまとめており、事故報告など詳細が確認できる。ただし、運営推進委員への資料送付の際に感想や意見を聴取していないため、議事録に意見交換内容の記載がない。また、委員以外の家族には運営推進会議の内容を知らせていない。	書面会議においても、意見交換を行い、サービス向上に活かしていけるように、返信等意見徴収の工夫に期待したい。また、委員以外の家族にも事業所の取組を伝えることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表が日頃より、市町村担当者と連絡を取られており、必要な指示をして下さっている。	代表が地区のグループホーム連絡協議会の役職に就いて活動し連絡を密に取るなど、福祉分野における協力関係を築いている。日頃から代表が担当課の窓口に出向き、サービスの取組を積極的に伝えている。職員は行政から案内がある研修も受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会より3ヶ月に1回、ミーティング時に話し合いを設け、全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化指針を整備し、委員会をユニット毎に3ヶ月に1回、研修を法人合同研修と内部研修により年2回実施している。毎月各ユニットで接遇研修を実施し、職員間で言葉遣い等課題を集約し検討・協議している。ドラッグロック対策として眠剤等も主治医に相談の上必要最低限の範囲で使用する等の取組を行っている。	

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット宝）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同研修やホーム内研修にて、必要とされる研修について計画し、毎年学んでおり、防止する意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作っており、判断能力が不十分な方でも、自立した生活を送れる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表がご家族との契約や話し合いの際に説明をしている。また、お手紙や電話連絡でも納得して頂ける様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、意見や要望、問題点や課題を反映できるようにしている。	意見箱設置、家族アンケートの結果は代表が把握し、職員と共に検討している。家族の要望から面会時間を増やした事例があった。面会時の他毎月家族に書類を送付する折に入居者の健康状態や日常生活の様子を伝えている。愛猫と共に暮らしたいという利用者の意向を叶え、居室にキャットタワーを設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談シートに現在抱えている問題や相談したい事を記入している。また、いつでも意見を言える環境を作っておくしている。	毎月の定例ミーティングの他ユニット毎に毎週ミニカンファレンスを実施している。代表はそれぞれに参加し課題等の共有化を図っている。年2回の個人面談、毎月の職員目標設定、自己評価及び職員間での評価を行うシステムにより、トップダウンでなく職員自ら考え働く職場環境を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが専門性を持って働ける体制を作り、やりがいのある職場で向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりに合った方法をアドバイスして下さったり、研修等で指導して下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、他の施設と交流を行っていたが、コロナ禍以降は交流できていない。しかし、合同研修で同業者と交流する機会は設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が出来ない事、困っている事など聴いたりご家族やケアマネージャーから聴き取り、ケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまで馴染んできた暮らしが、継続できるように困っている事、不安な事、要望を聴きながら接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されたら24時間シートで入居者様が何を求めているのか、入居者様、ご家族様、スタッフ間の情報を基に、必要としているサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等の生活リハビリやご本人が出来る事を行って頂き、役割を持って生活して頂く様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要物品の購入をお願いしたり、入居者様のご様子を伝え共有し、共に協力して入居者様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で思う様に会いたい時に会えないが、面会は行い、ご家族や大切な人との関係が途切れない様に支援している。	入居前に綿密に生活歴、趣味嗜好、馴染みの人などを把握している。ペットと共に暮らしたいという入居者や、自宅で倒れた身寄りのない一人住まいの高齢者宅を整理して入居となった事例がある。法事や正月の集まりに家庭に帰る際には職員が車で送迎するなど関係継続に積極的な姿勢が確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリやアクティビティを提供し、皆で出来る事、入居者同士が関わって出来る事を提供し、お互いに関わって行けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族様に、現在もご家族代表として運営推進会議のメンバーに入っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や主張に耳を傾けており、入居者様自ら選択できるように、自己決定したことを尊重し行動が表現できるよう支援している。	「お茶の時間」「かたらいの時間」には手作りおやつを添えて、職員は入居者の話を傾聴してる。就寝時間は定めず、本人の体調に合わせて自由に床に就くこととしている。入居者に代わって職員が遠影にお茶等を備える等、意向を伝えることが難しいケースでも思いを汲み取って対応していることが確認できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴など、ご家族に記入して頂いたり、サマリーなどを見て把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の様子観察を行い、できる事、出来ない事を把握し、できる力を損なわない様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで話し合い、ご本人の現状に合った対応を提供出来る様に努めている。	ユニット毎に毎月定例ミーティングや随時ミニカンファレンスを開き全職員で入居者の状況把握に努めている。各担当職員がセンター方式による詳細なアセスメント等を実施し、それを基に計画を作成し、計画作成担当者が最終確認を行っている。計画更新時ごとに電話や面会などで家族の要望も確認し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に詳しく記入したり、ケアカンファレンスシートを用いて、ケアプラン更新前に職員で話し合い、プランの見直しを行っている。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット宝）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、面会は外で15分となっているが、体調が悪く、ターミナルケアになっている方のご家族様には居室で、時間に制限なく面会して頂くなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が地域住民の一員として、家族や大切な人との関係を大切にし、繋がりを築ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様がかかりつけだった病院に受診したり、ホームの連携医に往診して頂いたりして、入居者様の健康管理に努めている。	かかりつけ医は継続可能である。定期的な往診や特変時の訪問診療など複数の医療機関の支援を得ている。他科受診や定期受診の際は職員2人体制で通院同行している。訪問看護師、非常勤看護師にも報告・相談を行っている他、訪問歯科による定期的な口腔ケアも組んでいる。24時間オンコール体制も確保し緊急時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報を提供、報告している。看護師には、週1回、現在の状況を報告・相談し、支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に代表が話し合いをされ、早期に退院できるように動いて下さる。何かあった際には、代表より指示を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、入居当時に伺っている。自分達に出来る事を医療機関、訪看と連携しながらチームで取り組んでいる。	看取り支援体制を組み実例を重ねている。重度化・ターミナルケア対応指針を入居時に家族へ説明し同意を得ている。重度化した際も意向の再聴取を行っている。日常的に職員間で「終の住処」としての意義を話し合っておりチームとしての意識も高い。看取り期はコロナ禍でも感染対策を図り、居室での家族面会を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、緊急時の対応方法や応急手当の研修に参加し、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、消防訓練を実施している。また、コンセント掃除を1日、15日と決め、火災の防止にも努めている。	毎月自主訓練をユニット合同で実施し、チェックシートで反省点・改善点及び良かった点を抽出し検討している。夜間想定では夜間専従職員も参加している他、今年3月には総合訓練を実施し消防署が立会っている。職員で作り上げたBCPを基に、災害時は基本的にホーム敷地内に留まると定めており、非常持ち出し品も整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、1人ひとりの人格を理解し、プライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。	理念に「生命力・経験の力に限りない信頼をよせる」と掲げている。年6回接遇研修を実施し、日頃から入居者一人ひとりを大切にす支援に努めている。洋服選びや化粧等の支援、相手の目線に合わせた温かな言葉掛け、気持ちの良い挨拶や立ち居振る舞いが確認できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの統一した考えのもと、ご本人の思いや希望を聴き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	サービス提供をする前に、どうしたいのかを尋ねたり、その方のペースに合わせる努力を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗髪、整容、整髪の身だしなみは勿論、化粧をしたり、帽子をかぶったり、入居者様に合わせたおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みを理解し、提供している。食事の盛り付けや準備、後片付け、食器拭きなどを楽しめる様に行っている。	専門職員が季節の食材を用いた食事を提供している。土日祝日の朝食、とろみや刻み、ミキサー食は職員が担当している。ケーキ寿司や刺身、七タソーメン、秋のむかごご飯、屋上でのバーベキューパーティ、陶器市で購入した食器の使用、誕生日のリクエスメニュー等、食の愉しみを大切にした支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を1500mlとし、1人ひとりの状態や習慣で思う様に摂れない時は、1回分を分けたり、時間を空け提供している。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット宝）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりに口腔ケアの声掛けをし、自力で行えない方はスタッフが行う様になっている。また、月に1度、歯科の往診を受け、口腔内の衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、解いて誘導を行っている。	設立当初からポータブルトイレを置かない方針で排泄の自立支援に取り組んでいる。排泄チェック表でパターンを把握し、可能な限り夜間でもトイレ誘導を行っている。トイレや脱衣所にパッドやおむつを置かず、必ず居室で交換している。入居により布パンツへ移行することができた事例が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のグループ体操やアクティビティで、身体を動かし、朝、1杯の水で蠕動運動を促している。また、個人でヤクルトを購入したり、その方に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週、2回以上入って頂く様に努めている。「入りたい」と要望があれば優先するが、殆ど要望は無い為、バイタル測定を行い、声掛けして1りずつ入って頂いている。	最低でも週2回、午後から夕方にかけて入浴支援を行っており、入浴日以外は更衣や清拭で対応している。リフトを設置し、入居者全員が浴槽に入ることができている。同性介助を基本としている。菖蒲や柚子湯、入浴剤を使用し、脱衣所にはエアコン他暖炉を模したヒーターを使用する等快適に入浴することができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、日中は活動し、夜にゆっくり休んで頂いているが、その時々状況や体調に応じて休息して頂いている時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様1人ひとりの病名を知り、処方されている薬の用途や用量、副作用を理解する様に心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様1人ひとりに役割を持って頂き、洗濯物たたみ等の仕事をお願いしたり、アクティビティで一緒に楽しんだりする時間を提供している。		

グループホームなどのみえるハウス（ユニット宝）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルスの影響で、容易に外出できないが、行事で少しずつ外出するようになって来ており、入居者様の気分転換を図っている。	コロナ禍前には屋上で地域住民や交流のある他施設等、100名以上参加する夏祭りを催すなど、積極的な外出支援を実施している。窓から眺める稲佐山の景色を見て入居者と外出計画を話し合っているところである。近隣の公園等への散歩、駐車場や屋上で花火見物や植物への水やり、外気浴を取り入れ、リフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分でお金の管理が出来る方がいない為、ご本人でお金を持っている方はいない。1名スタッフが管理している方がいて、毎月、1日、15日にチェックを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった時に、ご本人に代わったり、お花などが届いた際にホームから電話し、その時にご本人に代わってお話しして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、お風呂、居室が分かる様に貼り紙をしたり、季節の花などを飾り、入居者様が心地よく過ごして頂ける環境づくりに努めている。	リビングからは長崎港が一望でき、入居者はソファやテーブルで寛いでいる。日中は懐メロを流し心地よいリズムに乗って暮らしているとともに、新聞たみや食器拭きなど役割を持っている。玄関入口のプランターや屋上など季節ごとの植物や景色を楽しめる共有空間もある。浴室やトイレも個人のパッド類など配置せず清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で語ったり、1人でゆっくり過ごしたり、それぞれが思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの馴染の家具や仏壇など置いて頂ける様にしている。また、写真などを飾り、ご本人が部屋で落ち着ける様にしている。	事業所備え付け以外で、筆筒や鏡台など自由に持ち込んでいる。家族の写真、遺影の他、雑誌や化粧品など自宅での暮らしが窺える。入居者と共に飼っていた猫も受け入れており、キャットタワーなどを居室に設け在宅時からの継続した暮らしを支援している。全室加湿器を設置し、温湿度の管理により快適な空間作り心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の身体状況、認知レベルを把握して、できる事はご自分でして頂いて、スタッフはサポートをする。「見守る」を意識して支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101155		
法人名	有限会社 品川企画		
事業所名	グループホーム みなとのみえるハウス（ユニット心）		
所在地	長崎県長崎市川上町30-1		
自己評価作成日	R5.10.20	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みなとのみえるハウス」その名の通り、鶴の港と呼ばれた長崎港が一望出来る風光明媚な中に建っている。看取りについては、オープン当初よりホーム全体、スタッフ全員で取り組んでいる。ホームに関わる医師や看護師、介護用品等業者の方々も同様である。入居者の方々にとって、ここは「終の住処」をモットーとしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとの理念があり、申し送り時に唱和し意識付けを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会での地区の消防訓練に入居者・スタッフとで、参加したり回覧板を回すなどで交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、認知症について外部の方々へ理解や支援などを知って頂くような取り組みは殆ど行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過にて書面上での報告のみとなっているが、ご意見等あれば頂戴しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表が窓口となり、市町村担当者とは密に連絡し、状況の報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回職員自身のケアを振り返り、拘束に当てはまる行為など行っていないかの話し合う場を設けている。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット心）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言や荒い介助があったと思われる発言が入居者より確認されたが、それを調査し追及する姿勢が不十分であった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、職員が学ぶ機会を作り理解、活用しようとする姿勢は十分ではない。それらが必要となった方への支援を代表が行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は代表がホームの運営方針やケアのあり方に賛同して頂くよう、納得のいく説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からの要望を受け付けた時には、書類に残しどう改善していくか見直し、サービスを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	書面の面談シートにて意見や、不満等あれば記入し提出している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人員不足により、休日出勤当あるが手当等で支給して頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	品川企画内の研修は行っているが、外部研修は行っていない。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット心）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同研修にて他事業者の方と一緒に勉強する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事などには、できる事はすぐに行いできない事は、なぜ出来ないかを説明する事で本人の想いを尊重した対応を行っているという事を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者・ご家族が生活する上で、重要に考えている事を伺いその想いや不安などに、どのように対処するか相手様の意向を踏まえながら提示して、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に事前情報や家族の要望等をもとに、暫定のケアプランを立てておりサービス利用の反応を見ながら、修正を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を活かし、できる事を行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援するにあたり、困ったことがあればご家族に相談したりご家族から本人へ声掛けして頂き共に支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話で話せる時間は、設けているが馴染のある場所へは行けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で交流できる方もいれば、スタッフが間に入り交流をして頂ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もホームでの行事にお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意思を全て反映するのは難しいが、個人での行動や物品の購入などそれぞれが思うように、行動・過ごせるよに支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に、本人・ご家族の情報をもとに、これまでの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、一日をどう過ごしたかを個別に記録に残し、作業へ取り組んだときの言動や様子など、その時の様子の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成、モニタリング時に、担当者1人で行わず全ての職員が目を通し、気づきや意見を探りながら作成しており面会時には、ご家族からも情報を得ており現状の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録して、その時の様子を申し送り共有するとともに、日々のケアやケアプランの見直しに活用している。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット心）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護や訪問診療、訪問マッサージの導入など、各入居者の状況に応じて外部サービスも柔軟に取り入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院などの医療的な地域資源以外は余り把握しておらず、ホーム内での支援に留まっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付け医の継続、ホームの連携医の紹介などを本人、家族に提案し、決定して頂き、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子などを看護職に報告し、気になる点は報告して、必要であれば受診など、早目の対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーである代表が病院関係者との情報交換を行い、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に本人や家族の意思、考えを書面に記載するようしており、実際に重度化した際には改めて話し合い、方針を定め、本人、家族の思いに沿った対応が出来るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの取り扱いや心肺蘇生等の研修を全職員が定期的を受け、どの職員の時でも、緊急時、事故発生時にどのように対応したら良いか備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	月に1度の避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加しており、災害時のマニュアルも作成している。また、日頃より整理整頓を心掛けていたが、火災の原因となる、ほこりの除去が不十分であった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が出来ないこと、分からないことなどにも、本人を否定するような言葉は使わず、一緒に行く、手伝うなど、本人の人格を傷つけることのない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常的に入居者1人1人が自分で決めたり、希望を表すことを大切にし、それらを促すように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり事や都合で業務を進めるのではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら、自己決定して頂けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や入浴時、本人の好みやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを説明したり、皿の配置を食事状況に応じて替えるなど、楽しみながら食べて頂けるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者1人1人の食事量や水分量、栄養バランスを1日全体を通して把握し、不足気味の入居者には栄養補助食品を提供するなど、刻み、ミキサー食など食事形態にも配慮しながら支援している。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット心）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には、1人1人自分で歯磨きをして頂いた後、スポンジブラシ、舌下ブラシ等を使い、その方に合った方法で口腔ケアを行っている。また、定期的に訪問歯科診療をして頂き、口腔内の衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて2～3時間おきに誘導し、失敗を減らす働き掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養の摂れる食事の提供や1日1500mlの水分摂取をし、体操や歩行訓練、腹部マッサージに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けに応じて頂けた時のタイミングで介助を行っている。拒否がある時は、職員を交代したり、時間をずらして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣を尊重し、日中も休む方は居室で本を読んだり、横になれる時間はある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完全ではないが、分からない時はその都度、服薬リスト等で確認し、薬が変更になった場合にも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意分野や、能力、性格等を踏まえ、1人1人に合った役割、楽しみ事が行えるように支援している。		

グループホームみなとのみえるハウス（ユニット心）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を尊重し日常的に散歩や行事等で外出の機会を多くして、出来るだけ入居者の希望に沿った場所を選ぶ等の配慮を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会が減少したこともあり、お金を使う機会は殆どない。まずは、本人に必要な物を購入していることを話すことから取り組みを始めないといけない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1人1人の能力に応じて電話が出来る入居者には電話の支援をしたり、暑中見舞いや年賀状は入居者自身で自筆で書いて頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者の作成による季節の展示物、その季節の花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には独りになったり、気の合う入居者同士、自由に過ごせるような居場所の確保が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物や以前から使用していた物は引き続き使い、自分の部屋として認識して頂き、居心地よく過ごして頂けるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事を探り、自立支援の観点から能力に応じ見守りをしたり、必要最低限のサポートを行い、安全面に配慮した支援を行っている。		